

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400088
法人名	有限会社 甚目
事業所名	グループホームなごみ亀山
所在地	三重県亀山市亀田町字眞船336-10
自己評価作成日	平成 31 年 1 月 18 日
評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&JivvosvoCd=2490400088-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 31 年 2 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地から少し離れた位置にあり、自然が豊かで鳥のさえずり、猿の生活圏の環境の中、利用者一人一人のペースを大切にしながら、ゆったりとした生活を送れるように支援しています。また併設のデイサービスで機能訓練を行ったり、ボランティアの訪問をデイサービスの利用者達と楽しんだり地域の人達との交流につとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鳥のさえずりが聞こえ、野生のサルが生息している自然豊かな環境の中に立地する施設は、四季の移りを感じる事が出来る。同一敷地内にはデイサービス・居宅支援事業所が併設され、デイサービスと共同で災害訓練やボランティアの受け入れ等を行っている。職員の移動も少なく利用者と馴染みの関係が密にできており、家族・職員・地域住民に見守られながら、利用者のペースでゆったりと過ごせる家庭的な雰囲気のある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の項目が多く職員間で共有しにくいのではないかと意見を受け、行動指針を示し解りやすく提示している。	法人の基本理念とは別にホームの目標を全職員で検討し「笑顔」とした。常日頃忙しい中でも理念を思い出し、笑顔を絶やさない支援を心掛けている。また「一日10分」と目標も掲げ利用者向き合う時間を持つ様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉委員の呼びかけでイベント(夏祭り、文化祭)への参加、併設のデイサービスのボランティアや利用者達と交流を行っている。	自治会に加入しており、地域のイベントには声掛けがあり参加している。隣接のデイサービスに出かけてボランティアの方々と交流したり、デイサービスと共同でお楽しみ会(クリスマス会・ビンゴゲーム)参加を地域に呼びかけ、積極的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに参加することで認知症の人とのふれあいから日々の支援方法や苦労話をする事で理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回参加者を固定せず社会資源の中から選任する様にと意見を受けましたが、具体的に決まっていな。今後も参加の呼びかけを行っていきたい。	事業所から利用者の状況・行事報告等を行い、市や地域からは情報を得る機会となっている。家族の参加もあり心配事や意見も出てその都度対応できている。参加者や自治会長から地域行事の誘いもあり参加する等サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	県、市地域密着型連絡協議会の勉強会への参加で困りごとの相談、意見交換をしたり、運営基準などの分からない事は広域連合、亀山地域包括に相談、助言を頂いている。	介護保険上の質問や法改正時等、行政から情報を聞いたり、事故報告に出向いて関係を築いている。また、市地域密着型サービス事業所連絡協議会に参加し、意見交換を行い協力関係を築いている。毎月介護相談員の受け入れもしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月例会、運営推進会議で施設の身体拘束の現状や取り組みの報告を記録している。	月例会と職員集合時に「事業所のマニュアル」を基に研修し、全職員が身体拘束ケアについて理解している。管理者は日々の業務の中でスピーチロックを含め言葉使いには気を付ける様に指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝、夕の申送り、月例会等で連絡、報告のなかで、虐待が起こらないよう注意している。また内部、外部の勉強会への参加を促している。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	引き継ぎ、月例会の時に話したり、内部、外部の勉強会への参加を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書に沿って説明したうえで同意を得て、署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族より、新入社員の挨拶をお願いしたいと要望があり、職員と話し合い、運営推進会議の場でその家族を交え意見交換をした。	家族面会時に話しやすい環境づくりをし、色々な意見が聞けている。運営推進会議でも悩みや意見が聞け、その意見は連絡ノートに記入して全職員が共有し運営に反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会や定期的に代表と面談を行い、意見を聴取して業務に繋げるようにしている。	意見提案は月例会で検討できる。日常業務の中でも意見を出し易い雰囲気づくりに努め、職員間の意思疎通も充分に図られており、意見や思いを提案する事が出来て、職員のスキルアップになっている。代表と年1回の個人面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員おかれている勤務状況を把握して働きやすい環境づくりを心掛けている。また職員の能力、努力、成果についても代表者に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常に質の向上を推進しており、さらなるスキルアップをめざし、職場内外の研修会の参加の機会を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県、亀山市地域密着型連絡協議会に入会し勉強会、事例検討、他施設への見学の機会には自主的に参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者本人と面談したなかで、安心できるよう傾聴し話しかけている。また可能な限り家族にも本人の性格や生活歴を聞き取り、サービスに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所直後に施設でどのように生活したいか、不安な事は何かを聴きだし家族間の関係性を壊さない対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人らしい暮らし方、何している時がいきいきしているか、何か役割が持てないかを本人、家族に聞き取り、実際に目の前にして観察し、気づくことでサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の暮らしを応援する職員であり、利用者一人一人に合わせた支援に心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族とも一体と思い利用者が困っていることを家族に伝え、話をきいてもらったり、体調が優れないと家族が訪問して利用者の家に来ているように支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の家に行ったり、外出、外泊も自由に行っている。面会も家族だけに限らず、友人、知人宗教活動の仲間の訪問がある。	デイサービスに行き交流する事で、利用者同士で顔なじみの関係が作られている。昔の話が出る事が多い利用者には、一日10分の傾聴に心掛け途切れない支援を行っている。また家族との外出・外泊も自由に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の傍で会話の中から話題を提供し話を広げたり、出来る事を見極め、役割を持って居場所を作っている。職員が間に入らなくても自然と利用者同士助け合っている場面がみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先に面会に行ったり、自宅訪問し相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活パターンを把握し、今まで出来ていたことが出来なくなってきても、利用者の気持ちを慮り職員、家族が何が最良なのか支援方法を見つけプランに反映している。	日々の関わりや入居前の状況をアセスメントや家族からの聞き取りから把握し本人の意向を聞き出したり、表情や体位等で意向を判断して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者、家族から生活歴を聞き取りケアのヒントにしている。入所後も日々の生活のなかから観察、気づきその人らしさを見つけてる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の顔色、表情から汲み取ったり、日に二回のバイタルチェック、食事や水分量、排泄状態、いつもと違う様子から推察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月月例会で評価を行い新たな問題点、プランの変更や見直しをしている。また3か月に一度のモニタリングを行い介護計画に反映している。	アセスメントと日々の個別記録表を参考に、月1回の月例会でモニタリングをし計画作成者が介護計画を作成している。3か月に1回見直しをしている。利用者に変化があれば、医師・全職員・看護師が話し合い計画変更し状況を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づいたことを記録に残し、看護師に伝えたいことは備考欄に記入し、成功事例も失敗談もありのまま職員間で情報を共有して、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所以前の関係が途絶えない様、家族との外出、協力医以外の通院支援、急変時の病院受診、買い物の同行や代行支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設のデイサービスに行き地域の人達と交流を図ったり、地区の夏祭り、文化祭、花見への外出、支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の希望があれば応じており、特に要望がなければ、施設の協力医で月2回の往診、急変時では協力医より他の病院への紹介を行っている。	内科の協力医には月2回の往診を受け、かかりつけ医希望者は通院診療であるが、要望・状態変化時には、随時往診も可能である。他科は基本家族であるが職員の同行が多い。看護師が受診支援をし職員に専門的な指示があり関係者が情報共有して適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で体調の変化を看護師に報告をして対応をされていて、看護師が不在の時はデイサービスの看護師に応援を依頼している。また協力医に連絡、相談して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での様子を入院先の病棟看護師に情報提供を行い、出来る限り面会をして退院後も安心して帰れるようにしている。また病院側とのカンファレンスの場に参加して退院後スムーズに受け入れる体制を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になった時の指針を契約時に説明と同意を行っている。終末期ケアについても施設側と家族、協力医とで看取りについての確認書を説明と同意を得ている。	契約時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」で同意を得ている。状態変化時にはその都度医師・看護師・家族と十分に話し合い「看取りについての事前確認書」で利用者、家族の希望に応じて対応している。終末期に対する職員・医師・関係者との情報共有も十分に図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルに沿ってどの職員も対応できる体制をとっている。また感染症対策として看護師のもと演習を行っている。AEDの設置ある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回デイサービスと合同の消防、通報、避難訓練の実施を行っている。自治会には近隣の一時避難場所として、またAEDの使用についても運営推進会議で伝えている。	災害時一時避難場所として施設を開放する事を自治会に伝え、地域と協力体制を築く様にしている。デイサービスと合同で消防署指導で消火訓練・避難訓練を実施した。	災害はいつ起こるか解からない事から、様々な想定訓練を繰り返す事が望まれる。体制づくりや特に夜間想定への対応を再確認し職員の防災意識の高揚に努める事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開所してから7年目を迎えようとして、最初から利用してる人も、認知機能がかかなり低下しており、特に排泄に関しては気持ちを傷つける言動に注意している。	入浴時や排泄時における言葉かけには特に気を付けて、自尊心を傷つけない言葉かけや対応をしている。書類は事務所で保管する等、常に全職員でプライバシー確保について話し合って支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを声に出してもらえることは多いと感じる。その要望をすべてかなえる事が出来ない事もあるが信頼関係が築けているため話し合いで解決している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時として業務を優先し、その人のペースではない時もある。一人になりたいときは部屋で過ごしたりソファーでくつろいでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感が分からない利用者の洋服を一緒に選んだり、着すぎている場合は声をかけ脱いでもらうなど声掛けと見守りで出来る人と、職員が衣服の着脱の介助が必要な人がいてその人に合った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に立って一緒に作ることは難しいが、下ごしらえや食器拭きなどテーブルで出来ることをしてもらっている。	誕生日食は、利用者に好みの食品を聞いたり、旬の物を取り入れたり五感を刺激できる方法を考えて、いんげんのすじ取り等できる事を職員と一緒にしている。毎月1日の赤飯・誕生日食・外食は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ずつ食べる量、大きさ、形状が異なり、食べる時間も場所もその人に合わせ工夫している。また水分量、食事の摂取量も記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用者はしてもらい、出来ない利用者には声掛けや介助で適切に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人一人の排泄パターンを把握し、時間を見てトイレ誘導、介助を行っている。排泄後上手に処理できない場合も確認して支援している。	日々排泄パターンを記録し、全職員が把握したトイレでの自立支援をしている。ほとんどの利用者が、見守り・一部介助で排泄行為が出来ている。各居室とトイレにはナースコールが備え付けてあり緊急時にも対応出来る様に配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を提供したり、適度な運動で快適な排泄が行えるよう働きかけている。それでも排便が無いときには薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に入浴で曜日を決めているが、個浴でゆったりと入ってもらい、体調に合わせて日にちの変更や清拭を行っている。	基本週2回午前中に入浴である。職員と1対1で会話できる時間で皆楽しんで入浴している。季節を感じてもらう為に菖蒲湯や柚子湯も提供したり、個々の希望によって入浴剤を使用する時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく離床してフロアにいてもらうようにしているが、体調をみて横になって頂く。自ら部屋で休んだりと思いいに過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常備薬の薬の説明書にある症状が現れた時には協力医に報告し指示に従っている。薬が変更、追加の時は特に注意深く観察して変化がみられたときに協力医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活から、一人一人出来る事、楽しんでいる様子を見て苦痛のない支援を行っている。外出や外気浴などの気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設の敷地内を散歩したり、外気浴を楽しんでいる。本人の希望する場所には家族にお願いしたり、職員と出かけている。	利用者の高齢化で遠方への外出は難しくなりつつある方は、外気浴支援をしている。その日の体調・天候に合わせて散歩・外食・食材購入等で屋外に出ている。時には菖蒲や桜の花見に公園等に出かけて五感を刺激する支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている利用者は限られており、家族と出かける際に使っている。施設でお金を預かっている利用者があるが使用はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話してほしいと頼まれ電話を掛け、本人に渡し話している。携帯電話を持っている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で制作した季節に応じた壁紙や写真、季節ごとの飾り付け、リラックスできるようにソファを配置している。	居間兼食堂は天井が高くて広く明るい為ほとんどの時間この場に集まり自由に過ごしている利用者が多い。壁面には、桜の木々を表現した壁画やペーパーで作ったひな人形の壁画が飾られ楽しい空間となっている。畳コーナーも落ち着きがあり居心地よく、家庭的な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席を変えたり、テーブルの配置替えをしたり、利用者自ら思い思いの場所に自由に移動している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ、家具、寝具、小物、テレビ、仏様などを持ち込みその人らしい配置で、心地よい空間となっている。	広い間取りの居室は、ゆっくりと横になりくつろぐ事が出来る。洗面所・トイレが設置されている。個々の馴染みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせる工夫がされて、それぞれ個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっている。自分の部屋やトイレの場所が分からない利用者には場所の表示がしてある。		